解説・農協の合併は

食えぬ農業から食える農業へ

農協合併は時の要求

市では三十六年から農業構造改善事業を行なっていますが、こんご農業の近代化のプランを強力に推進するためにも、どうしても実現をせまられている重要なことがあります。

それは市内の農協を合併し、一つの大型農協にすることです。

農協の大型化によって、これから市が計画をしている農業の近代化事業がスムースに遂行できることになります。

そこで市では農協関係者らをあつめ、農協合併に対する研究を進めようと、このほど農協合併研究会（会長池川市長）をつくり、研究調査をすることにしました。

よりよい農業を営むためには国の政策を知り、それに乗ることも大切です。

国の所得倍増計画の遂行にともない、最底辺をゆく農業を振興するための農業基本法が昭和三十六年にでき、かつ、それら農民のよりどころである農協をより強力により大きく、農民のための真の農協にするための農協合併促進法を定め、農業の近代化とともに農協の機構改革を進めるようにしています。

ハウス栽培など商品として生産し、それを売るという企業的農家はごくわずかで、農家の多くは米や野菜を自家で使う自家消費農家によってしめられ、その規模も小さく、むかしながらの経営で、それに要する資本も少なく従って所得も低い、ところで所得倍増にともない物価は値上りをみせ、あまつさえ生活様式の近代化とともに、消費ムードにあおられて、所得とのつれあいのとれない農家がますます増えています。

そこで収入を得るため農業の働き手が他産業に流れ、農村の老令化が呼ばれてきました。

それらは国の所得倍増計画があまりにも他産業にのみ早く実施されたため、それらの産業は急速な伸長をみせたのに対し農業はひとりとりのこされたという結果から生じたもので、そのような農村の老令化を防ぐためには、若い人たちの就農を促進する必要が生じてきました。

このような現状から、農民を守るために農業基本法が作くられ、農民の地位向上の基本的指示が示されたものです。

それによると、まず土地の基盤整備を行ない、大型農用機械を導入しその土地に適する作物を集中的に栽培し、一人当りの所得及び反当収益を増して農業を魅力ある産業に仕立てようとするものであって、これらの事業を称して「農業構造改善事業」といい、そのためには多額の経費を要し、強力な指導体系をととのえる必要があります。

この事業に要する経費は、一部国の補助金をもって行なう事業もあるが、その多くは融資によらなければなりません。これらの融資や資材のあっせんをうけるにも、強力な指導をするにしても、また、生産物を有利に販売するにも、農民の唯一の団体である農協の力が弱くては到底その成果は望めません。

新築の瓶岩農協

合併研究できる

役員まかせにせず

農協合併を考えよう

もし農協が強力な事業資金を有し、有能な人材の確保によって、営農や技術指導を十分に得ることができ、時代とともにその地区の農業形態に即した共同利用施設が整備されたならば、それこそ真に協同精神に徹した組合員の組合としての機能を十分に発揮できる、農協といえるものです。

このようなことから国では、農協合併促進法を成立させ、来年三月末までに全国的に一市町村一農協という目標を建てています。そのためそれまで合併をすれば、税法上はもとより、そのほかでも恩恵を与える措置が構ぜられ、構造改善助成地区の指定をしてもらえるなど有利な取り扱いをされることになります。

ところで市の農協では、現状のままでもいまのところ一人立ちできるという考えのものと、できないものもあり、それが合併を望むものと、さほど切実に感じてないものもあるようです。

それではそれまでのことでなんの進歩もないことで、時代に逆行するものといえます。

農協は農協役員のためのものでなく、組合員自身のものです。どうすれば自分たち農家がよくなるか、よく考えてみましょう。

いまは一人よがりの時代ではないということも十分頭におく必要があります。

農協合併は時代がもとめているもので、県下でも一市町村一農協になっています。

安芸市は全国的な大型農協の一つとなり、須崎市もことし三月に一農協の発足をみることになっています。

このような大型農協が全国に数多くでき、経農や技術指導を推進することによって、かえって農協と農民のつながりが深くなり、信用度も増し、預金高が急激に伸んでいるという事実がでています。

農協合併をたんなる掛け声として酬かず、役員まかせにせずに、組合員一人一人が切実なものとして考える必要があります。

転入、転居の届け出は十四日以内に

市の窓口係へ

合併研究委員

池川滋寿（市長）沢村武一　橋詰利尾（稲生）細川益秀（野田）
（議長）吉村雅男、岩原栄　関田藤吉、岩貞正己、沢村元治
喜、山崎清重、島内正雄、（長岡）鍋島藤吉（久礼田）島
徳永安雄、中田清茂、井上　井武義、高村秀吉（国府）岡本
満吉（以上市議）北村謙一　卓一（瓶岩）横矢健一、池添水
士居美晴（千市）八松義之　夫（岡豊）竹内卓見、岩原寅男
助、田内盛喜（三和）浜田　（上倉）小松平喜、浜田早苗
幸一郎（前浜）竹島清重、（岩合農協）、金堂久喜（農委
吉川一亀（目章）池本豊范　会長）田村英実（農委振興部長）
窪田薫（大篠）浜田多国、中沢浪治（学識経験者）

市政にアイデアをうむ人たち

グループ活動

広報では二月の例会に出席し、その人たちと、意見の交換をしてみました。

庁舎を建てよ

市の庁舎は市の顔である。その顔がいまのままでは貧弱だ、早く庁舎を建設すべきだ。こんご労賃の値あがりで、工費の増大が見込まれる。そのためますます資金の回転がむつかしくなるだろう。庁舎建設により、一般行政を低下させることになっては困る。

市長　低下させないように考えている。同和事業の一つをみても昨年でよかったということがいえる。今日の一千万円は、明日の一千五百万円に相当するほどだ。議会と十分話し合って、早急に建てたいと思っている。

工費は一億二千万円で、七千万円の起債と、五千万円の自己資金が必要だ。そのため市有林の売却と、赤字解消のくり延べも考えている。

都市計画を

市の中心部の発展は、市の発展につながる。道路網の整備と市街地の青写真をつくり、勝手に建築をさせないよう許可制をしき、道路の予定地を確保しておくべきだ。

市長　ことし五百万円をかけて航空写真を作成する。四十年度には都市計画のプランを作くりたい。許可制についても考えないことはないが、実施することがはっきりしないと許可制は実施できないので、いますぐ予定地としての指定はできない。計画については専門家に委嘱することにしている。

市街地の交通マヒ

東町から西町までの商店街は駐車禁止にしてはどうか。

病院の入口もあり、人命にかかわるし、火災の場合、消火活動のさまたげになり大火となる恐れも十分にある。

南国署長　中町の交通マヒは十分注意をしているが、業者の自覚にまつほかはない。最近事故が多く、昨年一年間南国署で三二九件、その51%が国道55号線で発生している。昨年55号線で24時間の交通量を調査した結果、五、七〇六台の自動車が通り、平均15秒間に一台、ラシュー時には7秒間に一台の割合で走っている。

違反は飲酒が一番で、スピード違反や追い越しなども多い。国の方針もあり取締りを強化し、とくに飲酒運転は絶体にさせたくない。24時間、48時間の取締りや、料飲店を包囲し事故を未然に防ぐ方法も考えている。警察は潤するためでなく、事故を未然に防ぐために取り締っている。中町は一方交通ということも考えられるが、市民の協力によりなるべく指定はしたくない。

要するに交通マヒを起こさぬよう、お互が十分に気を付け、人に迷惑のかからぬようにしてもらいたい。

市旗と市民賞

市に市章ができているが、市民はあまり知らない。市章を染め抜いた市旗をつくり、庁舎にかかげてはどうか、また市民賞を制定し人をほめることも、人づくりの世の中に必要なものでなかろうか。それに市民がたのしく歌える市歌や、市民音頭もほしいものだが。

市長　市旗をかかげることも、市民賞、市歌もよい、ぜひ実現をはかりたい。とくに市民賞については他の市の条例などを参考にし、どのようにすべきか考えてみたい。

嶺南会

グループ活動